

質問：村井市議

②学校統廃合について伺います。

統廃合計画が、明らかになって以降、これまでに、山野、内浦、服部、広瀬学区から合計で8、764筆の学校存続を求める要望署名が提出され、内海学区からも要望書が教育委員会に提出されています。

この地域住民の思いを教育委員会は、どのように検討したのかお示してください。

その後も、市教委は説明会を行っていますが、保護者や地域住民の意見や存続要望は聞きおくだけで、統廃合計画について理解を求めるための説得に終始しています。

それぞれの説明会では、当該の学校の保護者や地域の方たちから、「今の学校だからこそ通学できた」「子どもが元気に通っていることができてうれしい」「子どもたちがいることで地域に活力が出る」などの声が相次ぎ、地域が一体となり、子どもたちを育て、学校を核として、地域コミュニティが深まっていることが示されています。

文科省の手引には、「学校を地域コミュニティの存続や発展の中核的な施設と位置付け、地域を挙げてその充実を図ることを希望する場合」に「学校統合を選択しないとする」ことができると示されています。

何よりも地域から学校がなくなれば、町は衰退し、いずれ消滅すると危惧されております。

行政が、町を衰退させる方向に、誘導することになりかねません。

教育委員会として、学校を存続させるために小規模校の良いところを最大限生かし、存続させる手立てをとるべきです。

2月14日には、全ての対象校の地域の住民や保護者の団体ら40人が出席し、内海ふれあいホールで連絡会議が開催されました。

まちづくりの中核となる学校の必要性や少人数教育の意義を確認し、学校存続に向け協議を続けることを申し合わせたことが報道されています。

地域のみなさんの強い思いを受け止め、住民合意の得られない学校統廃合計画を撤回することを強く求めます。

「全ては子どもたちのために」と教育長は、これまで述べてこられました。

そうであるならば、通っている子どもたちの、「学校を残してほしい」という声にこたえるべきではないでしょうか。ご所見をお示しください。

答弁（教育長） 次に、学校再編についてであります。

学校再編は、子ども達が、適正な集団規模による望ましい教育環境のもと、多様な人間関係や充実した指導体制の中で成長できるよう、教育的な観点で取り組みを進めて行こうとするものです。

子ども達が、多くの友達と切磋琢磨することができる環境の中で成長していくことの必要性については、これまで、小中一貫教育推進懇話会や学校教育環境検討委員会の中で、数年に亘って議論が重ねられてきました。

少子化が進む中、自ら考え学ぶ授業づくりに向けて、様々な意見や考え方に触れることのできる適正規模の学校環境を保障していくことは、今の教育委員会に求められている役割であり、避けては通

れないものと考えております。

こうしたことから、教育委員会は、昨年 8 月に、「福山市学校規模・学校配置の適正化計画」を策定し、学校再編の取り組みをすすめることとしたところであります。

地域の皆様からのご意見や要望書の内容につきましては、教育的観点を踏まえる中で、まちづくりや地域振興策も含め、保護者や地域の皆様と意見交換を重ねるなど、共通理解に立てるよう、丁寧な取り組みに努めてまいります。

以上